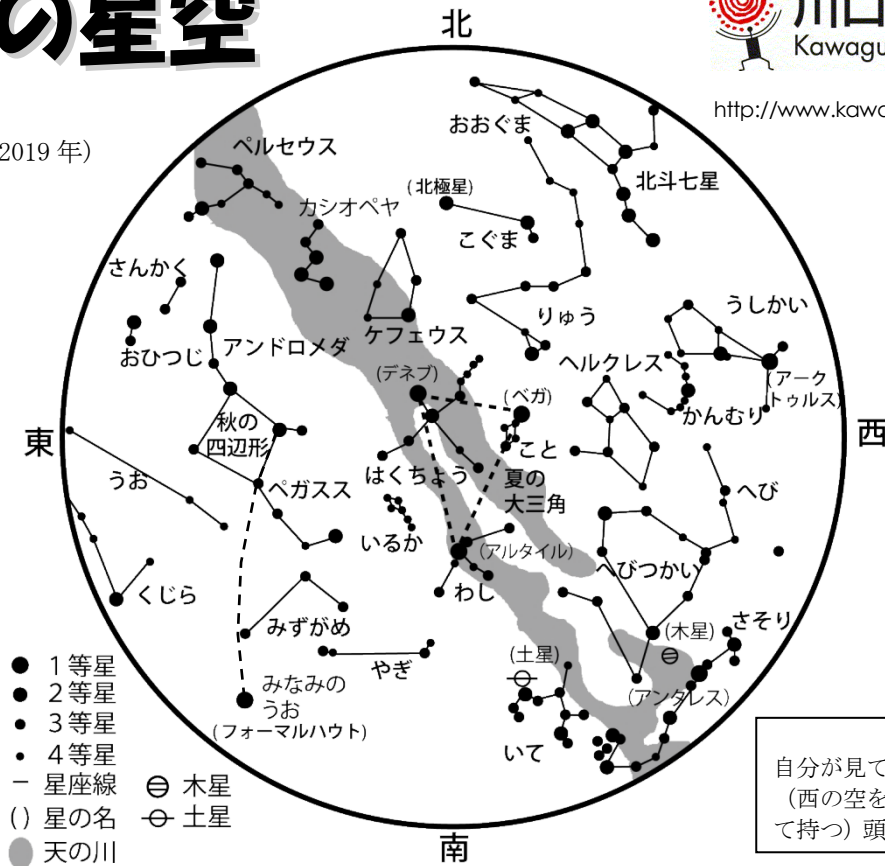


今月の星空



9月 (2019年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 上弦 6 日、○ 満月 14 日、◐ 下弦 22 日、● 新月 29 日
惑星情報 木星 夜のはじめ頃 南西 (へびつかい座 -2 等級)
土星 夜のはじめ頃 南→南西 (いて座 0 等級)

★秋の星座～お月見と星見のタイミング～

秋の夜空の目印となる、秋の四辺形が東の空に、1等星フォーマルハウトが南東の空に昇ってきました。上の星図のように、秋の四辺形の一辺を伸ばして、フォーマルハウトを見つけてみましょう。

秋はお月見のシーズンと言われますが、たくさんの星を見たい場合は、夜空を明るく照らす月を避ける必要があります。新月の頃以外にも、例えば、上弦の頃は月が沈む夜半以降、下弦の頃は月が昇る前の夜半まで、という具合に時間帯を選べば月明かりの影響を受けずに星空を楽しめます。

★9月13日 中秋の名月

中秋の名月とは、旧暦(太陰太陽暦)の8月15日の夜に見える月のこと。「十五夜」とも呼ばれ、この日にお月見をする習慣があります。月の満ち欠けのサイクルは、年に12回または13回ありますが、一般に秋は空気も澄んで月がきれいに見える季節と言われます。この機会に月をじっくり眺めて、月の模様などを観察してみましょう。

★十五夜=満月とは限らない～月の満ち欠けと月齢～

月の満ち欠けを基にした旧暦では、新月の日を月の始まりとしたため、ひと月(29日または30日)の中日である15日目は満月になりそうですが、そうでないこともあります。今年(2019年)は十五夜の翌日、9月14日が満月です。

さて、「新月」とは、右図のように、地球から見て、月が太陽と同じ方向に来る瞬間と定義されます。例えば、今年の8月30日19時37分に、「新月」(月齢^(注1) 0.0)となるため、この日が旧暦の1日です。同様に、「満月」とは月が太陽と正反対の方向に来る瞬間で、9月14日13時33分に「満月」(月齢 14.7)となります。この日は、「新月」から数えて、ほぼ15日(14.7日)後に当たるため、旧暦の16日です。ちなみに、この「新月」から「満月」までの所要時間は、月や地球の公転軌道が楕円であることなどから、一定ではありません。そのため、「満月」の月齢は、およそ13.9～15.6と大きく変化し、満月となり得る日も、旧暦14日～17日と幅があります。

(注1) 新月の瞬間からの経過時間を日数(一般に小数第1位まで)で表したものの。

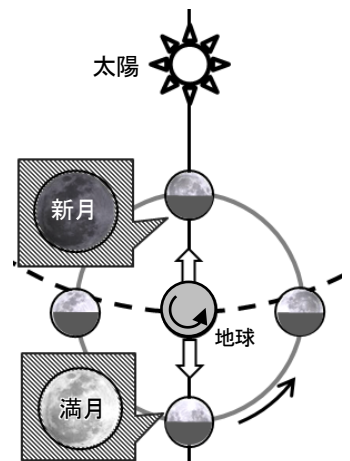


図 地球の北極側から見た太陽と月、地球の関係